

2020年11月9日

熊本県知事 蒲島郁夫様
八代市長 中村博生様
人吉市長 松岡隼人様
芦北町長 竹崎一成様
錦町長 森本完一様
あさぎり町長 尾鷹一範様
多良木町長 吉瀬浩一郎様
湯前町長 長谷和人様
水上村長 中嶽弘継様
相良村長 吉松啓一様
五木村長 木下丈二様
山江村長 内山慶治様
球磨村長 松谷浩一様

清流球磨川・川辺川を未来に手渡す流域郡市民の会 共同代表 岐部明廣
美しい球磨川を守る市民の会 代表 出水 晃
子守唄の里・五木を育む清流川辺川を守る県民の会 代表 中島 康

球磨川の治水協議に関する要請書

川辺川ダム問題が再燃した根源は、国土交通省等による球磨川豪雨検証委員会の「川辺川ダムがあれば人吉の浸水面積を6割減らすことができた」との検証結果です。しかし、その検証結果や内容を、国土交通省は住民に一切説明しようとはしません。なぜ説明しないのでしょうか。質問されるのを恐れているのでしょうか。結論をなぜ急ぐのでしょうか。ただ報道を通して、川辺川ダムの「効果」だけが一人歩きしている状況です。

10月12日に国土交通省あてに提出しました、「球磨川豪雨検証委員会に関する公開質問状」に対し、熊本県は「後日文書で回答する」と口頭で述べたにもかかわらず、国土交通省からの回答は、いまだありません。

今回の豪雨災害の検証や今後の治水対策は、豪雨被災者のためになされるものであるはずですが、ところが、今後の治水対策を検討する「球磨川流域治水協議会」のメンバーからも、被災者や住民は排除されています。説明責任や住民参加がなされぬままにことを進めると、後になって対立や混乱が生じ、球磨川の治水対策をさらに遅らせることになる懸念されます。未来に禍根を残さないためにも、球磨川の治水議論は住民参加でなされるべきです。

国土交通省は2008年8月に、熊本県知事に流水型の川辺川ダム（穴あきダム）を提案しました。

全国で運用されている流水型ダムの「穴」の上流側には、穴（トンネル）の中に流木等が入らないように、すき間が20cmのスクリーン（金網のような柵）が設置されます。川辺川ダムの集水域は470km²もあり、洪水時は大量の流木や岩石、土砂などがこの穴に押し寄せ、

穴を覆うスクリーンがふさがり、洪水調節できなくなることが十分考えられます。

また、流水型の川辺川ダムの穴（トンネル）の長さは100m程度になると推測され、魚族などの遡上はできなくなります。洪水時はダムの上流に砂や礫を大量にため込み、下流への砂や礫の供給はなくなり、ダムの下流は岩盤の露出や濁りの長期化など、河川環境に致命的なダメージを与えます。

川辺川上流にある「穴あきダム」である朴ノ木砂防ダムは、洪水時に大量の土砂をため込み、洪水が終わった後も流水型ダムであるために、ダム上流にたまった土砂が露出し、たまった土砂が流れ出し、長期間下流の川辺川と合流後の球磨川を濁しました。高さ25mの朴ノ木砂防ダムでもこの有様です。高さ108mの流水型の川辺川ダムができれば、濁りは比較にならないほど長期化することが容易に考えられ、川辺川は「死の川」となります。

川辺川ダムを流水型ダム（穴あきダム）にしても、球磨川の安全も、清流も守ることはできません。

今後なされるべきことは、治水に関する議論だけではなく、地域の復興に関する議論です。現在の球磨川・川辺川があってこそその地域の復興です。今後、治水の議論を進める上でも、復興を前提とした議論がなされるべきです。

10月26日に国土交通省に提出しました「球磨川流域治水協議会に関する抗議と要請」で要請した4項目を実施しないまま、国土交通省は球磨川流域治水協議会を開催しました。球磨川の治水協議に関し、説明責任や住民参加がなされていないことに、本日、国土交通省に対して強く抗議しました。

10月12日に国土交通省あてに提出しました、「球磨川豪雨検証委員会に関する公開質問状」に対する文書での回答を、問題をすり替えたりすることなく、住民の疑問に対し真摯に文書で回答し、対面で説明することを強く国土交通省に要請しました。さらに、国土交通省に対し、下記7点について公開質問を追加しました。住民が理解できるように、真摯に回答することを国土交通省に強く要請しました。

熊本県知事及び流域市町村長の皆様は、客観的、科学的な球磨川の治水協議がなされるよう、また流域の未来に禍根を残さないためにも、国土交通省に対し説明責任を求められることを要請します。

記

1. 従前の工事实施基本計画にある掘削面まで河道掘削した場合の人吉地点の流下能力とその算定根拠を明らかにすること。
2. 10月20日付の国交省八代河川国道事務所ホームページ「参考資料」の、「流量の推定について」48ページ等に瀬戸石ダム地点の堤防高、不等流計算の結果、水害痕跡などが掲載されているが、これを見ると今回の豪雨で瀬戸石ダムが洪水水位を大きく押し上げているのは明らかである。瀬戸石ダムは撤去すべきではないのか。
3. 川辺川ダムを流水型のダムとした場合、川辺川ダムの集水域は470km²もあり、洪水時は大量の流木や岩石、土砂などがこの穴に押し寄せ、穴を覆うスクリーンがふさがり、洪水調節できなくなるのではないのか。

4. 流水型の川辺川ダム穴（トンネル）の長さは100m程度になると推測され、魚族などの遡上はできなくなるのではないかと懸念されている。
5. 流水型の川辺川ダムは洪水時、ダムの上流に砂や礫を大量にため込み、下流への砂や礫の供給はなくなり、ダムの下流は岩盤の露出や濁りの長期化など、河川環境に致命的なダメージを与えるのではないかと懸念されている。
6. 流水型の川辺川ダムは、洪水時に大量の土砂をため込み、洪水が終わった後も穴あきダムであるために、ダム上流にたまった土砂が露出し、たまった土砂が流れ出し、長期間下流の川辺川と合流後の球磨川を濁すのではないかと懸念されている。
7. 様々な流量の洪水が、河川形態の多様性に深く関わっている。また、流量が大きく変化する中で、河川の中に樹木が繁茂することを抑制している。洪水のこのような作用を、流水型のダムは奪ってしまうのではないかと懸念されている。

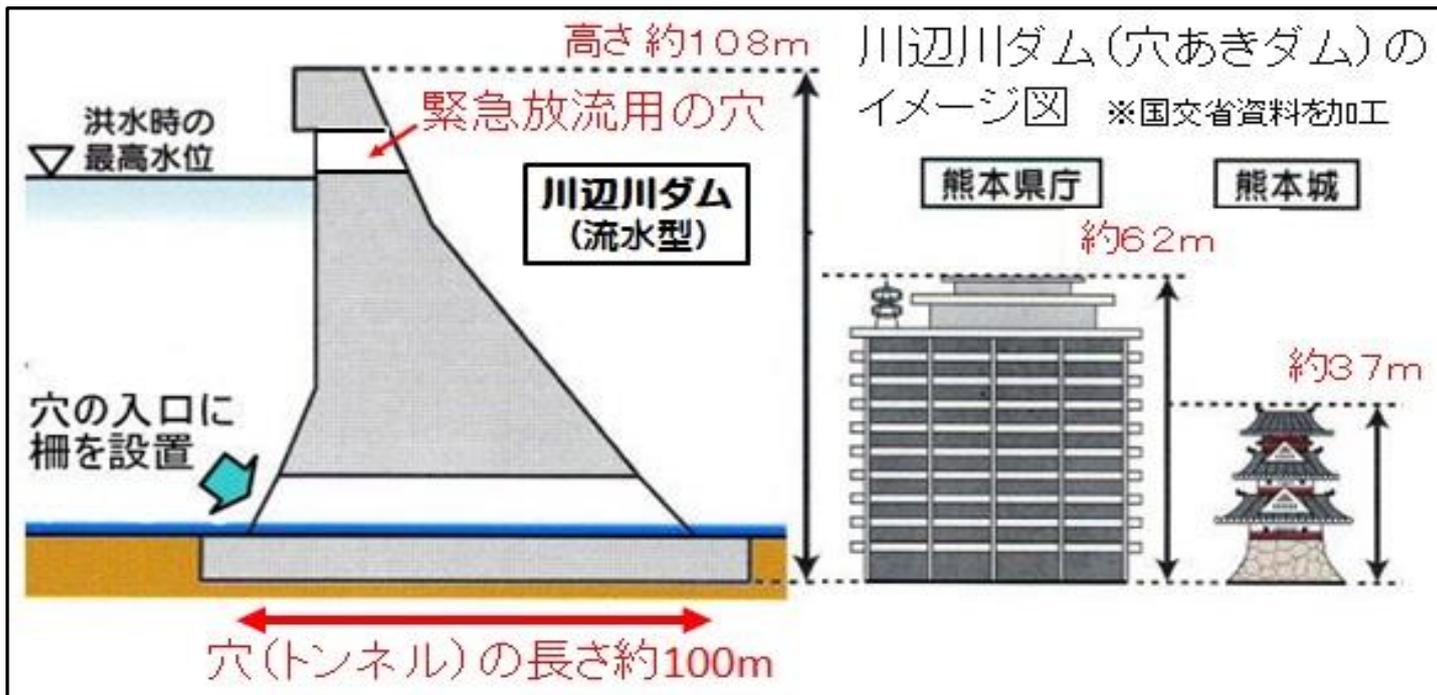
以上

【本文書に関する連絡・問合せ先】

子守唄の里・五木を育む清流川辺川を守る県民の会
熊本市西区島崎 4-5-13 中島康 電話

【資料】

川辺川ダムが穴あきダムになればどうなるの？



■川辺川ダムの穴(トンネル)の長さは約100m

流水型の川辺川ダムの穴(トンネル)の長さは100m近くになると推測されます。穴の幅と高さは、3～5m程度と思われます。高さ108mの巨大なコンクリート構造物が出現し、川辺川の清流は分断されます。河川環境を破壊するのは間違いなく、これではアユなども遡上できません。

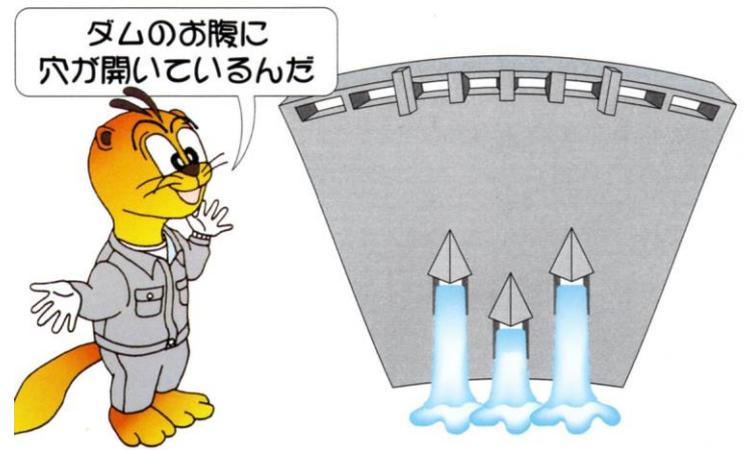
■穴あきダムの穴(トンネル)がふさがったら大変！



上の写真は、流水型ダム(穴あきダム)である島根県の益田川ダム(高さ48m)を上流側から見た写真です。全国の流水型ダムでは、ダム下部の穴(トンネル)の中に流木や岩石等が入ったら大変なので、穴の上流側に、すき間が20cmのスクリーン(金網のような柵)が設置されます。洪水時に流れる大量の流木等でスクリーンがふさがると洪水調節できなくなります。ダムの上部には、ダムが満水になった時に緊急漂流するための穴がずらりと並んでいます。

穴あき川辺川ダムでも安全も清流も守れない！

■穴あきダムの上部には、緊急放流するための大きな穴が開いています！



左の写真は、洪水時の流木でふさがった白川の取水堰です。洪水時は大量の流木や岩石などが写真のようにダムの穴に押し寄せ、ダムの穴を覆うスクリーンがふさがると洪水調節できなくなります。

右の図は、国土交通省の穴あきダム（立野ダム）の資料です。穴あきダムの上部には、非常放水用の8つの大きな穴が開いています。ダムが満水になれば、ダムへの流入量がダム上部の穴からあふれ出し、ダム下流の洪水流量は急激に増えることは明らかです。穴あきダムも緊急放流するのです！

■流水型ダム(穴あきダム)で川辺川は「死の川」となる



川辺川上流の朴の木砂防ダム上流にたまった土砂



長期間、川辺川は濁ったままだった(相良村平川)

穴あきダムは洪水時、ダムの上流に砂や礫を大量にため込み、下流への砂や礫の供給はなくなり、岩盤の露出や濁りの長期化など、球磨川と川辺川の河川環境に大きなダメージを与えます。

川辺川上流にある朴ノ木砂防ダム（穴あきダム）は、洪水時に大量の土砂をため込み、洪水が終わった後は、たまった土砂が露出し、今度はたまった土砂が流れ出し、長期間下流の川辺川と球磨川を濁しました。高さ108mの川辺川ダムができれば、さらに濁りが長期化し、川辺川は「死の川」となります。